

希学園 第413回 小4公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第413回公開テスト 小4国語 解説動画(2026年10月11日実施)	https://vimeo.com/1234564464/83c1d78738

1

天

画期

才色

明
けて

意外

負
えない

2

給
間

工

イ

イ
・
才

ア
ウ
B

イ
ウ
ア
工

3

関
界
イ
私以外の

工
我田引水

一神
神様
自分
いる

村全体のた
(記述題)

世間
江戸
火事

3

子供が生まれず、働き手もいなくなれば、村は
衰退の一途をたどっていくから。

(同意可)

配 点		
1	・ 2	8
3	・ 3	9
3	8	
その他		

各2点×13=26点

6点

各4点×17=68点

〈計〉100点

1

1 「天高く馬肥ゆる秋」とは、気候が穏やかで実りの豊かな秋の素晴らしいことを述べた表現。

2 「画期的」とは、「期を画する」、すなわち、それによって時代が区切られるような歴史的に稀有なもののこと。

3 「オ」とは頭脳の聡明さのことで、「色」とは容貌の美しさのこと。それが両方兼ね備えられているということ。

4 「夜が明ける」と記す。「席を空ける」、「とびらを開ける」などの「あける」との使い分けに注意。

5 「意外」とは「思ってもいなかった」ということ。「その他」という意味であるところの「以外」と区別するように。

6 「手に負えない」とは、対処できない、その人の能力を超えている、という意味。

2

『わたしは食べるのが下手』 天川栄人 ※問題作成の都合上、一部表記を変更しています。

1 文章全体を見渡すと、「毎朝、家で食パン一枚食べきるのにさえ、Q 三十分かかっている」とか、「今日も多すぎる給食と

戦うことになった」とかいった記述や、「コッペ」の「小林、お前相変わらず食べるの遅えな！」という発言が見つかることなど

から、普段から給食を時間内に食べきるのに四苦八苦している「私」の様子が窺える。そして、この日にこのほか「ズーンと、

気が滅入」るのは、「箸で豚肉をなるべく細かく切り分ける……ますます美味しそうじゃなくなる」という描写から窺えるように、

「豚キムチ」が「私」にとってまるで食欲を喚起させない食べ物であるためである。「辛くて食べられ」ないならば、何かその点

に触れる描写があつてよいはずだが、見受けられないからにはAは適切な説明とはいえない。

2 直後の鈎括弧で括られた部分が朝野先生の実際の発言ではない点に注意。あくまでそういう「心の声が聞こえてきそう」とい

うだけである。しかし、そのような「心の声が聞こえてきそう」というからには、そうしたことを気にしているのである。

3 「私」の抱えている問題は、給食を時間内に食べきることができない点にあり、始終このことを気にしている様子は物語全体

から読み取れよう。人が気にしているそうした点を無神経に口にしてしまうデリカシーのなさや「苦手」というのである。

4 「みんな」は食が進んでいるのに自分だけは一向に箸が進まない状況にある。その孤独やあせりを読み取りたい。また、こ

こであえて「くちやくちや」といった不快な咀嚼音が強調されている点には、それによる食欲減退が示されているものと読みた

い。そうかといつて「私」は周りを「ばかに」するような性格の子としては描かれていない。

5 鈎括弧の一般的な用法として、皮肉や裏の意味など、言外の意味内容を暗示する場合や、特に言葉を強調して示したい場合な

どのほか、他人の用いた言葉やよそから持ってきた言葉の引用を示す場合がある。この【解説】においても、本文の記述を「」

で括って引用していることが確認できるだろう。

6 「ずっと、喉に何かが詰まっているような感じ」というのは、本当に何か固形物が喉に詰まっているのではなくて、どうしても

食欲がわかないことの身体的な反応である。「食欲のなさ」についてはここまでにも繰り返し描かれてきたことに注意したい。

7 「その日も、私は給食を食べることができなかった」という「罪悪感」を抱くのは、「給食を食べべき」らねばと思っているか

らである。そう思いこむ要因は、「みなさん、残さずいただきます」 という朝野先生の最初のかげ声にあることだろう。

8 P:「時間ないよ!」と「朝野先生が急かす」様子。Q:「まるまる三十分」という表現で、少なくともそれだけの時間は完

全に経過していることを強調して示している。R:「よれよれ」とは、衣服が古びたりして、しわになっている様子。S:「私」

の皿の料理が一向に減らないのに、「みんな」の皿はどんどん空になっていく様子。

3

『「空気」を読んでも従わない』 鴻上尚史 ※問題作成の都合上、一部表記を変更しています。

1 「つまり」という言葉が出てきたら基本的にマークしておく文章理解に役立つことは多い。言い換えの接続詞である。

2 文章全体の流れのなかにこの部分を位置づけたい。後の箇所に「かつて日本には、キリスト教やイスラム教の一神教と同じぐ

らい強力な『神様』がいました。それが、『世間』です」とあった。両者の重ね合わせをもとに論を展開しているのである。

3 二つ後の段落全体にかけて、「みんなを無条件で救うものではない」という「一神教の神様」の厳しさを説明したあと、同段落末尾

近くにて「一神教というのは、厳しいものなのです」とまとめ直していた。

4 初詣、葬式、結婚式と、場面に応じて信仰が変わるかのような日本人の宗教との関わりを形容した表現となる。要するに、無頓着

に近いような接しかたなのである。「よく言えばA、悪く言えばBだ」というからには、Aにはポジティブな表現が、

Bにはネガティブな表現がはいる。直後で「無宗教」にも喩えられるくらいなのだから、「熱心」、「やりすぎ」という表現は

ふさわしくない。

5 由来から察するに、自分さえよければよいと考えて行動する、といった意味の四字熟語だと見当をつける。さらに「田」に「水」

を「引」く、ときたら是非ともひらめいて欲しい。

6 ◎の文を読むと、「救い」だとか「救わなかった」だとかいった言葉が目につく。つまり、「一神教の神様」が信仰されている

世界との重ね合わせがなされているのである。あとは設問の条件に従って、「本文中のここより前」すなわち一神教の説明をして

いた部分から、どのような者を「一神教の神様」が救ったのかを探し出せばよい。

7 設問の指定通り、★の段落から理由を「簡潔に」説明している部分を探そう。ここで「理由」を訊かれている以上、ぬき出し

問題であっても文末は「……から」というかたちで終わるであろうと見当をつけられると、手早く見つけることができる。

8 直前の一文と対を成す内容になっているので、前文で述べられる因果関係の各段階をそれぞれひっくり返していけば自動的に

答えができあがる。

9 X:「渡る世間に鬼はない」とは、世間には無慈悲な人ばかりでなく、情け深い人もいるものだということ。Y:「江戸のか

たきを長崎で討つ」とは、意外な場面や筋違いのことで、以前に受けた恨みを晴らすこと。Z:「対岸の火事」とは、いくら人

が騒いでいようと自分にはこれといって利害のないこと。他人事。

以上